

3 昭和37年度配布精液による受胎調査、並びに昭和36年度配布精液による産子調査

秋永運雄 芝崎 幸

(1) 総括

種別	人工授精頭数		受胎頭数	不受胎頭数	性 否 不明頭数	平均授精回数
	実頭数	延頭数				
乳牛	3,080	5,273	1,664	662	754	1.7
和牛	11	12	9	1	1	1.1

種別	受胎率		36年度産子成績				
	実頭数に対し	延頭数に対し	雌	雄	性別不詳	流産	死産
乳牛	71.5%	36.8%	758	601	106	17	45
和牛	90.0	81.8	4	5	0	0	1

(2) 受胎成績の分析

1) 乳用種雄牛別受胎成績

名 前	生年月日	産 地	人工授精頭数	受胎頭数	雄不明頭数	受胎率
カーネーションモデルマスター	526.3.8	米 国	258	134	66	69.8%
ネリサープリリーフィンランド	429.3.19	岩手県	11	6	4	85.7
仏ペリアル ベッシー トリスターラッド	430.6.14	場 産	523	267	98	62.8
ネリガバナー ベッソーヤルキング	432.6.7	北海道	237	126	63	72.4
仏ペリアル ミドリ サートリスター	433.9.8	場 産	580	298	168	72.3
ロベッス マドキャップ サンデー	434.9.11	北海道	100	45	31	65.2
スプリング ホープフル ベスロベル	435.10.6	場 産	237	168	50	89.8
スプリング ホープフル アムバサダーラッド	435.10.14	〃	421	233	105	73.7
バタボイトリスター シェリ	435.12.15	北海道	405	219	93	71.1
アール チェーミア パレード	436.3.13	〃	242	133	57	71.9
ウオーカー ロベル ミドリ プリリー	436.7.27	場 産	66	35	19	74.5
計			3,080	1,664	754	71.5

2) ホルスタイン種雄牛の季節別の季節別受胎成績

季別	人工授精頭数		受胎頭数	妊否不明頭数	受胎率		備考
	実頭数	延頭数			実頭数に対し	延頭数に対し	
春	916	1,741	549	226	79.6%	36.2%	4月~6月
夏	570	1,037	378	128	85.5	41.6	7月~9月
秋	806	1,390	433	218	73.6	36.9	10月~12月
冬	788	1,105	304	182	50.2	32.9	1月~3月
計	3,080	5,273	1,664	754	71.5	36.8	

3) ホルスタイン種雄牛の地域別受胎成績

地域別	人工授精頭数		受胎頭数	妊否不明頭数	不妊頭数	平均授精回数	受胎率	
	実頭数	延頭数					実頭数に対し	延頭数に対し
西多摩郡(市町誌誌)	2,078	3,646	1,207	414	457	1.8	72.5%	37.3%
北多摩郡(")	620	1,070	291	195	134	1.7	68.7	33.3
南多摩郡(")	196	273	80	75	41	1.4	66.1	40.4
区内	106	163	54	29	23	1.5	70.1	40.3
区外	80	121	32	41	7	1.5	82.1	40.0
計	3,080	5,273	1,664	754	662	1.7	71.5	36.8

4) 雌牛の回数別受胎成績

回数別	人工授精頭数	受胎頭数	不受胎頭数	妊否不明頭数	受胎率	受胎総頭数に占める割合
1回	1,850	1,059	361	430	74.6%	63.6%
2	677	306	175	196	63.6	18.4
3	290	155	56	79	73.4	9.3
4	142	78	31	33	71.2	4.7
5回以上	121	66	39	16	62.9	4.0
計	3,080	1,664	662	754	71.5	100.0

5) 前年度との比較

年度別	人工授精頭数		受胎頭数	不受胎頭数	妊否不明頭数	受胎率	
	実頭数	延頭数				実頭数に対し	延頭数に対し
36	2,888	5,114	1,530	662	696	69.8%	34.6%
37	3,080	5,273	1,664	662	754	71.5	36.8

(3) むすび

当場における配布精液による受胎並びに産子の状況を把握するため、本調査を実施したが、その調査結果を要約すると、顕著な傾向はみられないが、全般的には受胎率は前年度に比し、稍々向上しており、季節別では、夏季の受胎率が向上し、各季を通じて最も高い受胎率を示し、春夏秋冬の順に低下し、地域別では、北多摩郡が最も低く、他の地域では、殆ど差が認められなかった。

しかしながら、全般的な傾向として、受胎率は低く、このことは、飼養規模の拡大に伴う労働力不足、飼養環境の劣悪化等に起因するものと考えられるので、繁殖技術の向上とともに、省力管理、並びに飼養改善に関する技術の普及徹底をはかる必要があると思われる。

♀ 種雄牛の精液採取頻度並びに採取回数が精液性状及び乗駕欲に与える影響について

送畑 亮 荒岡昭司 高橋忠一

種雄牛の精液採取回数の増加に伴う、種雄牛の乗駕意欲、及び精液性状の変化について調査するため試験を実施した。

(1) 試験方法

1) 期間 自昭和37.6～至37.8 3ヶ月間

2) 供用種雄牛

略号	種類	名 号	生年月日
M	ホルスタイン種	イムペリアルミドリサートリスター	S 33.9.8
A	〃	スプリングホープアルムバサダラッド	S 35.10.14

3) 採取間隔

略号	間 隔
M	5日～6日～5日～6日
A	3日～3日～5日～3日～3日～5日